



YA本研究会だより

2017.9

Vol.3



…毎年恒例！インターンシップの大学生参戦…

夏の終わりのビブリオバトルと言え、大学生の初挑戦！そう、今どきの中高生と違って、大学生はビブリオバトル未経験者が多いです。現中高生が大学生になる頃にはさら〜とこなすんだらうな…なんて、ここ数年の感想です。さあ、今年の大学生二人のビブリオバトルはいかにー!?



「最初にやっちゃったら？」という口車に乗せられて、1、2番で登場した二人の緊張ぶいを見ると罪悪感が湧いてきて、「がんばれ！」と応援したくなる…。ベテランバトルたちの「だいじょうぶ!？」的な視線が、子を見守る母みたいで笑える…。しかし、投票はシビアに行われ、結果は以下のとおり。



今回紹介された本は…

- 「バスカヴィル家の犬」 「流星の絆」 「気障でけっこうです」
- 「文豪ストレイドッグス公式国語便覧」 「夏と花火と私の死体」
- 「初恋ソムリエ」 「少年Nの長い長い旅」
- 「犬やねこが消えた」 「似ている英語」 「僕は上手にしゃべれない」

熾烈な戦いを制し、チャンプ本に選ばれたのは…

「夏と花火と私の死体」乙一/著

集英社 2000.5 ¥419 (BFオ) 所蔵:本館・志摩館

《内容》

9歳の夏休み、「わたし」は殺されたー。幼くして殺人者となった少女とその兄の4日間の恐るべき“冒険”を、死体である「わたし」の目線で描く異色のホラー小説。

著者・乙一のデビュー作であり、第6回ジャンプ小説・ノンフィクション大賞受賞作。

《おすすめのポイント》

殺人という罪を犯してしまった妹と、その妹を助けるため死体を隠そうと奮闘する兄一。「何を」とか「なんのために」とかを考えなかったら、“美しき兄妹愛”なのですが、前提がアシですから…。重大犯罪を隠蔽しようとしてるんだけど、その方法が子どもっぽかったりするところはちょっとびっくりします。著者が16歳の時の作品だということに一番びっくりです。

次回の委員会はいよいよフックカフェの開店日！今年は公開ビブリオバトルに加え、「激論！だからマンガが好きなのよ」と冠したYA研恒例マンガバトルを開催しますよ。ぜひぜひご参加ください。



…第1回・第2回の図書館員体験、無事終了…

せっかく図書館に関わってるんだから、私たち司書がどんな仕事をしてるのかちょっと覗いてもらいたい！との願いから、今年は図書館員体験を活動に加えています。メンバーたちに「もし体験するなら、どんなことをしてみたい？」と尋ねたところ、意外や意外、1番に出てきたのが「排架」でした。図書館と言えば「カウンターでピピしたい」という希望が多い中、なんとすばらしい子どもたちなんだろう、と涙が出るほどの感動を覚えました。

夏休み中に行った第1回目(8月19日)「本の補修・和綴じ」では、中学生メンバー二人と、ちょうど来ていたインターンシッフの大学生二人が体験しました。図書館での補修の基本的考え方や、紙の種類によってボンドやのりを使い分けることに驚きつつ、なんとも上手に補修をしてくれました。



補修の終わった本の山



和綴じ体験では、目をキラキラさせながら材料を選び、出来上がったメモ帳を嬉しそうに持って帰る姿に、心から「やってよかった～」と思えました。

第2回目(9月3日)は一番人気だった「本の排架」体験。メンバーがこの仕事を選んだ理由、みなさんにもお聞かせいたしましょう!!

♡日頃は手に取らない本に出会いたい♡

これぞYA本研究会の目指していることではありませんか！活動時間がいつもより少し長くなってしまったけれど、なにか新しい出会いがあったかなあ…。成果は、きっと今後のビブリオバトルに現れるはず。期待しましょう！



なぜかみんな同じ姿勢…！
どうしてもこうなります



これからの図書館員体験は、カウンター業務、定例会はなし会が待っています。